

すすむ大学のキャリア教育・支援

キャリア教育が

大学で盛んになった理由

よく学び、よく遊ぶ大学生が「本命企業」に内定する

かつて企業の採用場面では、学生が大学で勉強したかどうかはあまり重視されないとわかれていた。しかし、最近の様子が変わったようだ。

電通育英会と京都大学が大学3年生に行った調査(07~08年実施)によれば、本命企業(第一志望)から内定を得た学生は、本命企業から内定を得られなかった学生よりも勉強時間が長かった。また、企業から内定を得た学生は、内定を得られなかったり、就職活動を放棄した学生よりも友達と交際する時間が長かった。以上について、勉強時間を「勉強志向」、交際時間を「対人志向」と表現すると図1のようになる。本命企業に内定する学生は、勉強志向、対人志向

ともに高い傾向があるという。就職活動においては、よく遊び、よく学ぶことがより良い結果に結びつく。これがこの調査の結論だ。

多くの大学もこうした傾向に気がついている。できれば学生たちに本命企業に内定してもらいたい。少なくとも未内定や就活放棄は避けてほしい。それが大学の願いであり、大学のキャリア教育が盛んになっている大きな理由のひとつだ。

この背景には大学進学率が50%を超え、学生が年々多様化しているという事情もある。学ぶ目的が見出せないまま大学生活を過ごす学生や、大学を出てどんな仕事をするのか、何を目標に生きていくのかビジョンがないまま卒業していく学生が増えていると多くの大学が実感している。そうした学生が積極的に学び、将来の

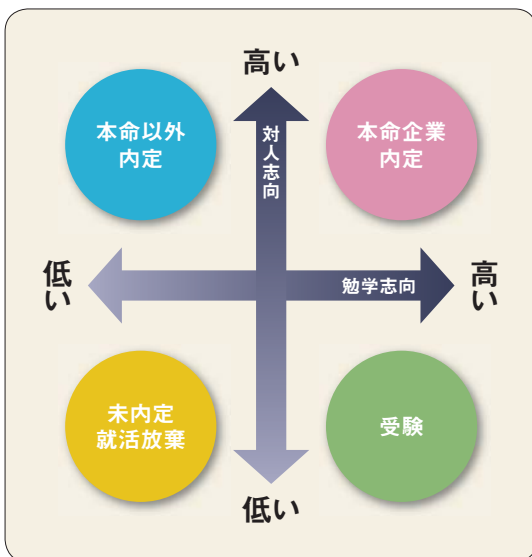
希望と目標を持つために大学ができること。そのひとつがキャリア教育なのだ。

早期離職者の共通点は「自己決定」していないこと

就職後についても、過去には見られなかったことが起きている。大卒者の離職率の高さだ。「入社後3年以内に会社を辞める人の割合」は平成に入ってから年々上昇している(図2)。

これには様々な要因が考えられる。まず、転職に対する偏見がなくなり、転職市場も整備され、かつてより「転職しやすい」社会になったということがある。会社も変わった。「グローバル競争」が様々な業界の合言葉となり、競争環境は年々激化している。そのため新入社員を育てる余裕

図1 勉強志向、対人志向と就職活動の関係



がなく、早々に「人前になることが求められる」「終身雇用」というかつての約束事も、もはや無いに等しい。そして、本人の問題がある。ある大学が卒業生にアンケート調査をした

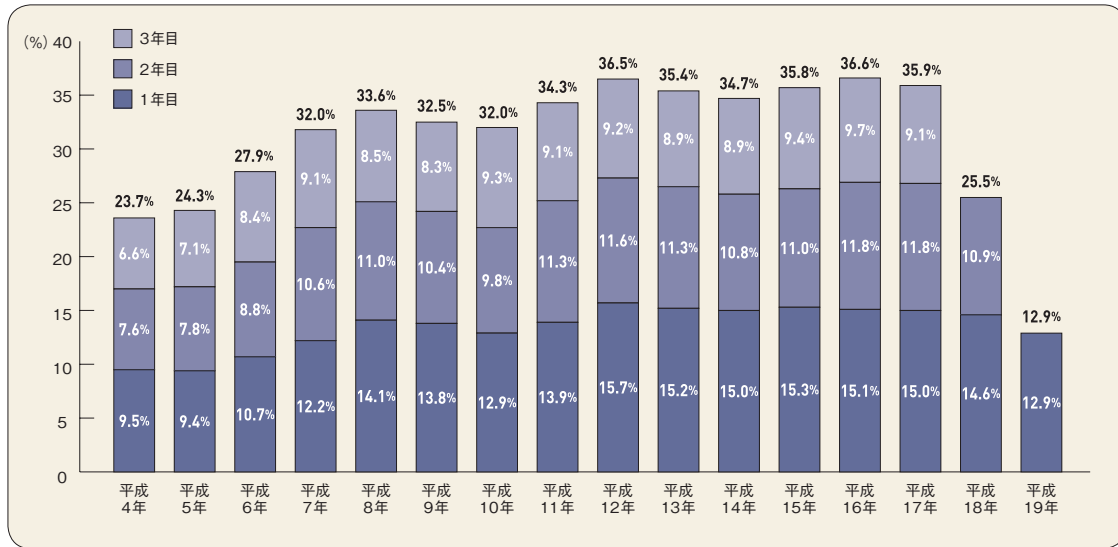
子どもが将来、自立した社会人・職業人になれるよう、国を挙げて推進している「キャリア教育」。小・中・高校だけでなく、大学でも活発に取り組まれるようになり、文部科学省は今後すべての大学での実施を義務づけようとしている。大学でキャリア教育が必要とされる背景を探った。

まとめ / 荒尾貴正

※出典：京都大学 / 電通育英会共同 大学生のキャリア意識調査2007追跡

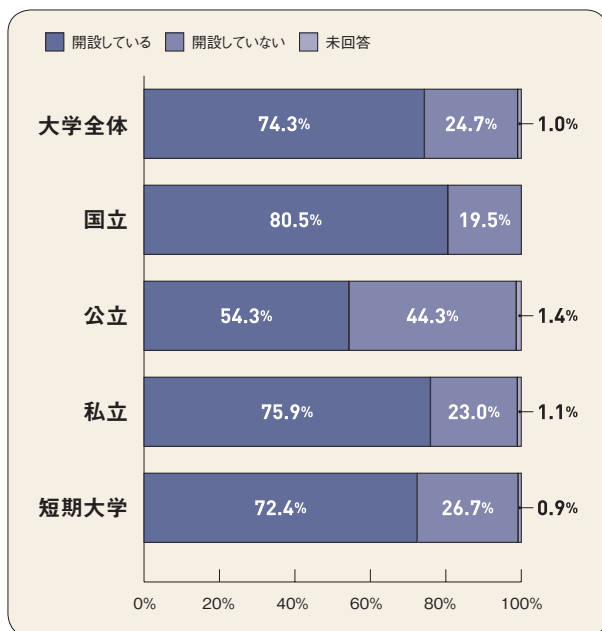
※「受験」とは、公務員試験、教員採用試験などを受験して就職を目指す学生

図2 大学卒新入社員の3年以内離職率の推移



※出典：厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」

図3 「キャリア教育」に関連する大学の取り組み
職業意識の形成に関する授業科目の開設状況について



※出典：日本学生支援機構「平成20年度大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」

ところ、早期離職をした学生は「自己決定していない」という傾向があった。自分の意志ではなく、親や教員の「言いなり」で決めた学生ほど就職後の満足度が低く、離職率も高い。企業規模や給与に関係なく、そうした傾向が見られたという。

大学でキャリア教育を行う必要性があることが、以上のようなことから明らかになった。3、4年次の「就職指導」だけでは足りないのだ。大学の学びや新しい人間関係にスムーズに入っていくための支援、現代社会の仕組みや職業を理解するための支援、何事も自己決定し、自身でキャリア形成できるよ

うになるための支援、そうした「キャリア支援」が1年次から必要になっていくという認識は多くの大学で共通している。

図3のように、すでにキャリア教育に取り組んでいる大学は7割以上に達し、年々増加している。そして文部科学省は、すべての大学がキャリア教育に取り組むよう、新たな指針を打ち出そうとしている。「学生が卒業後自らの能力を發揮し、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」を培うことができるような体制を整えることを、大学設置基準を通じてすべての大学に求めようとしているのだ。

キャリア教育を 大学選びの新しい視点に

このように各大学でキャリア教育が導入されつつある今、大学を選ぶひとつの目安として、保護者もキャリア教育について知っておくべきだろう。「就職」という通過点だけでなく、「キャリア」という人生全体を形づくることを大学がどのように支援してくれるのか、その先進的な例を次ページから紹介していく。

まず武蔵野大学は、これまでも海外インターンシップなどのキャリア教育を通じて、学生の意欲向上に取り組んできた。その成果を生かした、「武蔵野BASIS」という新たな基礎教育が今年度からスタートする点に注目したい。

立教大学はキリスト教に基づく、学生一人ひとりを大切にする教育に定評がある。「コオプ教育」という北米をルーツとする企業連携教育が、キャリア教育の中心だ。

立命館大学の特長は、2600人の卒業生ネットワークが学生のキャリア支援、就職支援に全面的に協力していること。学生相談件数も多く、大学、学生、卒業生の三者の信頼関係が大学の強みになっているようだ。

これらの例から、大学のキャリア教育の現状を知っていただきたい。